

キャリア・研究の紹介

環境政策・計画学科

金谷 健



キャリアの紹介

高校・大学・大学院
職歴1・職歴2・職歴3

現在(職歴3)に至るポイント

自分で選択

自分の選択ではない: 偶然か、声かけられる

チャンスは大切に!

キャリア① <高校・大学・大学院>

- 1975年3月 茨城県立古河第三高等学校 理数科 卒業
- 1979年3月 東京工業大学 工学部 化学工学科 卒業
- 1981年3月 東京工業大学 大学院 総合理工学研究科 化学環境工学専攻 修士課程 修了
- 1981年4月 環境庁 国立公害研究所大気環境部 研究員
- 1987年7月 同 総合解析部研究員併任
- 1989年8月 京都大学工学部衛生工学科 助手
- 1995年4月 滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻 講師
- 2004年4月 同 助教授
- 2007年4月 同 准教授
- 2008年4月 滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 准教授
- 2009年7月 滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 教授

キャリア② <高校時代>

- ・好きな科目 ー一> 数学、物理、日本史
- ・将来について ー一> わからないので、大学に入ってから考えよう!
- ・日記 ー一> 週末に、毎週書いていた(中3~修士2年)
- ・友人Yとの語りあい <きっかけは高2のGWに偶然、街中で会ったこと>
 - ー一> 同じクラスの友人Yの自宅に、月1回か2回、週末に泊まって語り合った。
高2~高3。お婆さんの「うどん」がおいしかった。今でも、かけがえのない親友。
- ・進学先で迷ったこと
 - ・文学部で日本史を学ぶか、工学部か
 - ー一> 日本史は「趣味(歴史小説など)」
にして、理数科の進学先として
無難な工学部へ
 - ・手先が不器用だが、工学部で大丈夫か?
 - ー一> 従兄の大学生に相談して、「大丈夫」と言われた。
* 実際には、不器用で、実験で多少苦労した。

キャリア③ <大学時代>

- 東京工業大学の2類(材料系)に入学。
 - * 4類(機械系)を志望したが、入試成績の関係で、2類に回される。
 - * 今になってみると、このとき機械系に入れなくて、大正解。自分には機械は向いていない。
 - * 2年進学時に転類して、3類(化学系)の化学工学科に進学。
 - * 本当は、6類の社会工学科に行きたかったが、金谷より成績良さそうな同期も6類に転類志望との情報があり、転類可能そうな3類を選択した。
- サイクリング部に入部。
5万で自転車購入(輪行できる)。一人で、グループで、日本全国(北海道~九州)あちこちに行った。
- 化学工学科の2年時の「化学実験」での相棒だった友人Kから、「公害問題のサークルを作らないか?」と誘われ、応じる。現代問題研究会というサークル名。
- 結果として、現代問題研究会での活動が、現在につながる、その後の人生を決定づけた。
- サイクリング部は楽しく、現代問題研究会は手ごたえがあった。
どちらの自分が本当の自分か?と悩んだ時期もあった。
両方とも本当の自分だ、と理解するのに、1年くらいかかった。

キャリア④ < 公害問題のサークル活動 >

- ・読書会、自由レポート(週1回)
 - * 巨大都市、日本の公害、谷中村滅亡史など
- ・公害現地での合宿
 - * 足尾銅山、鹿島市、富士市、四日市、安中市、水俣市など
- ・川崎市の工業地帯での住民アンケート調査
 - * 10日くらいかけて、歩いてアンケート配布。
話を聞く。世の中、おかしいと思った。
- ・大学祭での講演会主催(毎年)
 - * 例: 公害とは犯罪である
(東京都公害規制部長; 田尻宗昭氏)
- ・環状七号線の道路騒音測定の実験の支援
- ・大学2年～大学院修士2年まで。

キャリア⑤ <研究室： 卒論・修論>

- 公害・環境問題を研究している研究室に行きたい、と考えた。
- 化学工学科から入れる研究室が、資源化学研究所に2つあることがわかった(明島研究室と久保田研究室)。
- 化学工学科の内規で、化学工学科以外の部署の研究室には、各1名まで。
- 金谷は久保田研究室へ、Kは明島研究室へ。
- 久保田研究室で、3年間過ごす。
- 卒論 水質汚濁物質の流達過程について
- 修論 下水道の適正規模について
- 進路

修論発表会

現在では、博士号を取得していないと無理

埼玉県庁(化学職)×

国家公務員上級職試験(化学職)○

通産省工業技術院公害資源研究所 ○

環境庁国立公害研究所大気環境部

エアロゾル研究室 ○ → 研究職公務員として働く

部長から
声かけら
れた



キャリア⑥ <職歴>

- 1975年3月 茨城県立古河第三高等学校 理数科 卒業
- 1979年3月 東京工業大学 工学部 化学工学科 卒業
- 1981年3月 東京工業大学 大学院 総合理工学研究科 化学環境工学専攻 修士課程 修了
- 1981年4月 環境庁 国立公害研究所大気環境部 研究員 <現 国立研究開発法人 国立環境研究所>
- 1987年7月 同 総合解析部研究員併任
- 1989年8月 京都大学工学部衛生工学科 助手 <現 地球工学科 環境工学コース>
博士論文:一般廃棄物焼却灰埋立地浸出水の水量水質予測に関する研究,
京都大学 第9876号, 全172p, 1993.
- 1995年4月 滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻 講師 <大学設立時から勤務>
- 2004年4月 同 助教授
- 2007年4月 同 准教授
- 2008年4月 滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 准教授
- 2009年7月 滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 教授

キャリア⑦ <現在の担当科目>

<担当科目>

前期

月 人間探求学(1回生)、廃棄物管理論(3回生:単独)

火 環境FW I (Cグループ)

水 廃棄物とリサイクル(大学院:単独)

政策計画演習 I (3回生)、政策計画演習 III (4回生)

木

金 基礎統計(1回生:単独)

後期

合意形成支援技法・演習(2回生:単独)

政策計画演習 II (3回生)、政策計画演習 IV (4回生)

政策形成・施設演習(1回生)

研究の紹介

廃棄物についての
様々な制度やシステムの
実態把握と改善策の提案

これまでの主な研究を、3つ紹介

家庭ごみ有料化における手数料使途の実態及び情報公開

- 家庭ごみ有料化における手数料使途の実態や情報公開の詳細な全国的傾向について、有料化施行時期が近年（2005年～2009年）の市へのアンケート調査と統計分析を行い、主に以下のことがわかった。
 - 1) 手数料収入は、特別会計でなく一般会計に入るが、使途を「限定なし」の市の割合は25%であり、6年前の59%から、大幅に減少した。
 - 2) 使途項目が、新規が3割程度あり、有料化の手数料で、新規に始められた事業が少なくない。なお継続であっても、事業費が増加している使途項目が約5割ある。
 - 3) 手数料使途内容の決定過程の資料の情報公開、手数料使途実績の情報公開も、ともに約半数の市で実施されている。
 - 4) 手数料使途の情報公開とごみ減量との間には、統計的に有意な関連が認められる。

自治体における事業系ごみへの搬入規制等の 実施実態と効果的な事業系ごみ減量施策

- 自治体における事業系ごみへの搬入規制等の実施実態と効果的な事業系ごみ減量施策を、全国の市制自治体へのアンケート調査と統計分析によって調べた。得られた主な知見は以下の通りである。
 - 1) 実施率が高く、かつ都市規模による違いが少ない施策は、「検査装置を使わない搬入物検査」と「他自治体のごみ混入への対策」であった。
 - 2) パネルデータ分析で事業系ごみ減量効果が認められた施策は、効果が高い順に、「他自治体のごみ混入への対策」、「検査装置による搬入物検査」、「自己搬入者への搬入事前予約の義務化」、「事業系ごみ手数料の値上げ」、「資源化可能物への搬入規制」、「検査装置を使わない搬入物検査」であった。

外国人によるごみ排出問題行動の 現状把握と自治体による情報提供方法に関する提案

- 外国人によるごみ排出問題行動の現状と自治体による情報提供方法を、主に外国人人口比率上位市区町村へのアンケート調査と統計分析によって調べた。得られた主な知見とそれらに基づく提案は以下の通りである。
 - 1) ごみ排出問題行動の原因に関して、住民全体では、「方法を理解できるが実践しないため」という理由が多く、外国人住民では、「方法を理解できないため」という理由が多い。
 - 2) 自治体による情報提供において、分別区分や排出方法などは提供されるが、分別の必要性や分別後のごみ処理の方法に関する提供は少ない。
 - 3) 現行の情報提供方法の改善策として、「分別の必要性などを内容に含める」、「外国人住民が疑問に感じる内容に関する情報提供を心がける」を提案する。